

第 10 分科会

学生支援の「場」を問い直す

～コロナ禍での現状と課題～

分科会概要：

コロナ禍において、我々の生活様式は大きく変化した。大学においては、これまで「対面」が当たり前であった授業が「オンライン」で行われるようになり、授業における ICT 活用が積極的に推進されている。このような「場」の変容は、学生支援の現場でも起こっている。対面での相談が困難な状況の中で、学生支援はどのように行われているのだろうか。また、コロナを経て、今後学生支援の「場」や実践活動はどのように変容していくのだろうか。

本分科会では、コロナ禍で学生支援に携わってきた先生方に、対面およびオンラインでの学生支援の実践例をご紹介いただき、今後の学生支援における「場（キャンパス）」の意義について議論していただく。

<プログラム>

9：30 趣旨説明

京都文教大学 臨床心理学部 特任講師 浦野 由平 氏

9：35 講演 1. 「学生支援におけるキャンパスという『場』の意義」

甲南大学 文学部 教授／学生相談室専任カウンセラー 高石 恭子 氏

10：05 講演 2. 「コロナ禍での実践例①：学生相談の現場から」

成蹊大学 学生サポートセンター学生相談室 専任カウンセラー
(経営学部 教授) 林 潤一郎 氏

10：35 講演 3. 「コロナ禍での実践例②：障がい学生支援の現場から」

京都文教大学 障がい学生支援室 職員 藤原 めぐみ 氏

11：05 質疑応答：講演者とフロアから